

琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査 第1回検討会
議事要旨

日時：平成18年4月10日 13:30～16:30

場所：滋賀県農業教育情報センター - 4F 第5研修室

出席者：久保委員、高橋委員、中井委員、西野委員、細谷委員、松岡委員
国土交通省琵琶湖河川事務所河川環境課、滋賀県自然環境保全課、滋賀県水産課（2名出席）、滋賀県水産試験場（2名出席）

事務局：環境省、（財）琵琶湖・淀川水質保全機構

議事内容：

座長の選出

- ・ 座長に細谷委員が、職務代行者に西野委員が選出された。

モデル事業について

- ・ 内湖でモデル事業を行う意義について、表現が限定的であることから、琵琶湖での取り組みにもふれた表現方法とすること。
 - ・ 琵琶湖以外の他地域のモデル事業との情報交換の場を設ける必要がある。
- 各機関の取り組みについて
- ・ 国土交通省琵琶湖河川事務所河川環境課：魚類の刺激に対する選好性を利用した「棲み分け」状態を作り出し、外来魚による在来コイ科魚類の捕食を防ぐ技術研究を実施。
 - ・ 滋賀県自然環境保全課：外来魚リリース禁止などの琵琶湖ルールを定めるとともに、釣り人からの外来魚の回収事業、普及啓発等を実施。
 - ・ 滋賀県水産課：外来魚の駆除促進、繁殖抑制、回収処理、駆除技術の確立など各種事業を実施。
 - ・ 滋賀県水産試験場：ブルーギルの効果的捕獲法・繁殖抑制法の調査検討の他、外来魚の冬季蝸集場所調査、曾根沼におけるモデル実験、琵琶湖の外来魚の生息状況調査などを実施。

平成17年度調査結果について

- ・ 冬期蝸集調査で、ヨシ帯などにも蝸集している可能性があり、魚群探知機には引っかけられないものがいたと思われる。他の方法を行ってみる必要がある。

平成18年度調査計画について

- ・ 繁殖抑制対策は遅くとも初回は5月初めに調査する必要がある。仔稚魚の駆除は、5月下旬から6月下旬の間、週に2回行う方がよい。また、仔稚魚の調査は金魚網では規模が小さいため、三角網(目合1mm)を用いたほうが良い。
- ・ 野田沼での水温測定の地点数を増やす方が良いのではないか。人工産卵床の近傍の水温も計った方がよい。
- ・ 人工産卵床の設置は水深1.5m以浅とした方が現実的である。
- ・ 野田沼において、沈水植物の分布を調査できないか。密なところではバスが産卵床を作りにくいと考えられる。

その他

- ・ 外来魚の防除事業の保全目標を明確にする必要がある。回遊型 + エコタイプ産卵型といった生活史に分けた分析が必要であり、同じ在来魚でもコイやカネヒラだけではなく、ヤリタナゴやシロヒレタビラが増えることを目標におくべき。
- ・ このモデル事業の結果を琵琶湖や他の場所へどう展開するのか。今後考えていく必要がある。また、外来魚防除に取り組む関係各機関が互いにデータを持ち寄って話し合う必要がある。
- ・ 次回は、10月を目途に第2回検討会を実施する。

(文責：近畿地方環境事務所野生生物課)